

## 大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京海洋大学
整理番号	A-②-5
事 業 名	「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">S</div>	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント)	
<p>本プログラムは、上海海洋大学、韓国海洋大学校を相手大学とし、科学・技術分野におけるEU加盟国間の人物交流協力計画の1つであるエラスムス計画に倣った「日中韓版エラスムス」と名付けたシステムにより、海洋における国際共同教育プログラムを構築することを目的としている。</p> <p>教育プログラム名を「OQEANOUS」（オケアヌス）と名付け、質の保証を伴う円滑な学生派遣・受入のため、3大学での協議会により策定した統一基準の単位互換システムであるCTSEAガイドラインを基に運用するなど、実質的な連携が行われている。また、サマープログラム（STP: Short Term Program）や国際協働教育プログラム（IJP: International Joint Program）に加え、質の高いダブル・ディグリープログラム（DDP）も構築し、実施されている。その他の点でも緻密な計画が認められ、事業運営が着実に進められているものと高く評価できる。学生の支援体制も3か国語のトライリンガルであるコーディネータを配置することできめ細やかな対応をした結果、交流学生数も当初計画を上回る実績を残しており、評価できる。</p> <p>一方で、3つのプログラムであるSTP、IJP、DDPの派遣・受入に関して、相手大学の偏りや単位取得を伴わない短期交流が多くなっており、各大学の学生のニーズ、社会環境等からバランスが取りづらい点は理解できるものの、各大学との継続的な協議や、計画段階である外部評価委員会による評価の実施により問題点を明確に捉え、当初計画にある単位取得を伴う短期・長期の交流を実施し、バランスのとれた大学間交流が成されるよう、対策を策定した上で実行することが求められる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>	